



城南支部 (株) 梶谷商事 梶野泰一

時の視点

大久保信隆 理事

東京で雪が降らない珍しい年で、日本中が暖冬となっており、様々な影響が出ております。異常気象だけで済ましてしまうのだけ

なく、他業界を報道から考えてみますと、衣料業界は冬物が売れず春物が売れているそうです。食品業界では飲料水関係が伸びて、おでん等の鍋物材料が駄目で、白菜は特に豊作なのに買ってくれないとWパンチです。

家電業界は暖房器具が駄目だが、花粉症対策か空気清浄機が売れているとの事です。雪なしのため雪国の土建業は雪対策の作業もなく、この冬のレジャー業界は、スキー場は勿論駄目でゴルフ場は良かったようです。エネルギー業界では、灯油は売れないので生産を少なくしジェット燃料へ増量し石油の精製率を変えたそうです。ガスは暖かいと膨張するので販売量が減るそうで、東京ガスでは前年比5・6%減で、電力各社は前年比3・6%減ったといっております。先日、製紙メーカーの方が「夏は暑く冬寒くないと消費が伸びなくて段ボールも売れ行き悪いです」と言っていました。同業界の中でも違いが出てきておりこんな所からも格差が出てくるのです。地球の温暖化問題については、京都議定書では日本は90年比6%の総排出量の削減を世界に約束しているが数字だけの達成でなく、寒暖のある四季を生む日本にしていかななくては行けません。政治家は、国民の地球の温度

を上げない意見をまとめ、協力をさせて、世界のリーダーとして「美しい日本」を築いていかななくてはならないと思います。我々も協力体制を取るよう頑張りましょう。

一般社会では格差社会が特に問題になっております。我々の業界はどうでしょうか。販売先の家庭紙メーカーは、06年操業を停止した志摩産業、羽陽産業、常盤ティッシュ、マツオカ製紙、福陽製紙、二塚製紙、千葉製紙所の7社と明治製紙は東海パルプに統合、美藤製紙、市川製紙、小野製紙は丸富製紙とグループ化と11社が業界再編の大波をかぶり、我々原料商は痛手と販売窓口の縮小になりました。産業古紙の発生は少なくなったと言われておりますが、売り先が少なくなるのはあととボデイブローで効いてきます。家庭紙の価格がもう一段と復活した値段に上がらないと、業界の再編はまだ半ばといわれているので、怖いのです。今後、家庭紙原料の販売は慎重に対処していかなくてはなりません。裾物三品は二重価格の真っ只中で、国内と海外の「格差」が一番大きくなっており、仕入れは各地で混乱をして大変困っております。どう納めるか製紙メーカー、直納問屋にとつて大問題です。

原因を考えてみると、ごみの減量と地球環境を考えた資源循環型社会の構築がされ、産廃、一廃にあたらない故、許認可業務の無いことが、まともに真面目に事業活動を行って約100年続いている優等生の古紙業界が、売れ過ぎによって、古紙の価値観を見失いそうになっていることがあると思います。古紙を常にもう一度再生させるためには、グルグル長い間回れるような形にして行くのが基本と思います、永年需給両業界で安定を第一に考えてきましたが、ここ2、3年で国際市場が急速に出現し大きく変化しました。よって、わが国の古紙の輸出は03年197万トン、04年238万トン、05年371万トン、06年388万トン3年間で倍の規模となっています。その80%が中国へ輸出されています。中国の古紙輸入量は現在2000万トン、紙、板紙の生産量は5000万トンで毎年20%伸びており、計画では10年で8000万トンと米国の生産量を超えてしまいます。その中でも先日来日した九龍紙業は、10年前広州東莞工場で20万トンの生産だったが、今、江蘇省大倉工場の4ラインを含めて530万トンになり2010年には900万トンになると、言っております。私も

2年前、そして今年の1月に大倉工場へ2回視察をしました。綺麗な建て屋の中に三菱重工のTMシステムのライナーマシン取幅6・6m分速1000m超える堂々と動いており、そして40万トンの段ボール原紙生産ラインが2系列完成真近でした。凄いいの発展振りですし、中国各地にそのほかのメーカーよる新規増設も沢山あり、中国経済の成長が何処までいくのかは、高速道路網の進歩と一党支配が続く限り、上海万博後の経済の行方を心配に値しないと思います。

そして今、米国の製紙業はまだ1942年製造の設備を使っていると言うほど、新規増設を怠っているのが、業界が溶けてしまつて、これから紙の輸入国になるのではと言われだしております。幸い日本のメーカーは競って増設しているので国際競争に残って行くと思えますが会社統合がさらに進み、購入窓口は減ることはあると思います。このままいくと近い将来、製品を中国と米国への輸出競争になるかもしれません。こんな競争は夢かもしれませんが我々の真の願いは日本の製紙会社が国際市場に勝ち残ってもらい、発展してもらわなくては、我々が困るのです。そこで日本の製紙会社が国際競争の中へ入つ

て勝負していただきたいです。

まず手始めに全国製紙原料商工組合連合会がお願いしている古紙二重価格は正をやって頂きたいです。中国が古紙集荷体制の出来てない今、先進の生産者として、また必ず原料面も勝てるはずで、勝手な考えとは思いますが、国内では格差を作つていけないと思います。古紙の集荷を多く集めるためには経費が掛かるのは当然で、売り手市場の時は特にトントン位の差は全員が認めていることの格差ですが、今のようない国内格差は、疑心暗鬼を生むばかりで、安定供給する直納問屋と製紙メーカー協力体制が取れなくなると思います。国会の討論を聴きながら、あまりにも古紙は輸出価格との差が広がっている、ペンが走りまわりました。早く回収を増大させ「格差」を無くしたいので皆さんよろしく願います。

静岡県紙業協会家庭紙部会

との懇談会

〔平成19年2月26日(月)午後2時〜〕

於) 富士工業技術センター大研修室

出席者: 静岡県紙業協会家庭紙部会 25名
(内、家庭紙メーカー21名)

静岡県製紙原料商業組合 6名
東京都製紙原料協同組合 9名

三団体代表挨拶

イデシギョー(株)井出代表取締役会長

〔静岡県紙業協会家庭紙部会〕

家庭紙の原料供給について今後どうなるのかと現在、パルプの値段が止まらないまま、3月からの原料に対しての不安を抱えている。この問題に関して皆様からの情報を得ながら話し合いを行い進めていく考えである。昨年1年間のトイレットペーパーの生産量102万4千トンで103・1%、ティッシュは52万3千トンで96・5%、タオルは15万2千トンで108・6%であった。輸入されるトイレットペーパーは増えていて、昨年1

年間で15、689トン、12月だけで1、636トン輸入されている。トイレットペーパーの値段が上がらないよう輸入品の価格が下がっても大手の間屋さんが牽制をしている状況である。古紙原料の供給に関しては、これから古紙を使うメーカーと実際に何回も会って話し合いをしていくことが大切だと思っています。

皆川理事長 〔東京都製紙原料協同組合〕

古紙業者にとっては、古紙を使ってくさっているのが最大のお客様です。少ない回数の会議でも、このような場を持たせてもらえることは大変にありがたいことです。いつものことですが決済条件の改善ということで、大分、改善いただけたところも増えたようですが、まだまだ残っているところもありますので引き続きお願いを致します。

年末にも会議がありました。中国の影響で、ここところ古紙だけでなく資源物すべてにわたり高騰している。業界団体では沈黙化できないか相談をしているのですが、その中でも価格が上がってしまう状況でありません。

この先、不透明でやりにくい時期を迎えて

おりますが、そのへんの細かいところを含めて後程、説明させていただきます。本日は、大変お忙しい時間をさいいただきましてありがとうございます。

市川副理事長 〔静岡県製紙原料商業組合〕

古紙に関しての色々な情報が飛び交っていて訳がわからない状況になっております。本日は、静岡のメーカーさんや関東からの業者さんが参加しているので実りある情報の場としていきたいと思っております。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

古紙全般の市況について

近藤副理事長 〔東京都製紙原料協同組合〕

2006年の古紙の回収量は2、284万tで前年比約52万tの回収増となり、その分、国内メーカーの入荷増が34万t、輸出増が18万tとほぼ数字どおりの結果となりました。依然として毎年毎年、回収増が続いています。古紙業界では、増えたと言われているわりには実感がほとんど無いのが現状であります。発生増の原因として、発生が全国各地に分散していることと、産廃の業界が

直接、輸出をしていること、ヤード数が非常に増えているということが要因となり実感がなく感じられると思われる。むしろ最近の大きな問題は、輸出価格の高騰により仕入の過当競争が関東全域で広まっている。大手商社系ヤードの進出のため、その防戦買いのため、新聞の仕入価格の高騰が出ているような状況である。一方では、古紙問屋の廃業もみられ、価格上昇の影響が色々なかたちで出てきているように思われる。

輸出の状況は、昨年、中国の新聞用紙メーカーの大増築があり180万トンと言われているが、その影響で昨年の秋から新聞の価格が急上昇してきた。1月に国内の新聞価格が2円の修正となったが、それと同時に輸出価格も上昇して内外格差が縮まらない状態が続いている。関東商組の2月の共販輸出価格は、新聞19・10円、雑誌15・62円、段ボールはレギュラー物で15・32円となっている。3月度の予想価格は、新聞、雑誌は横這い、段ボールは更に上昇があるのではないかと予想されると言われている。

中国では今年から、来年にかけて段原紙の増設が400トン以上増えると言われており、その影響で日本だけでなくアメリカ、ヨーロッパ、

ツパ、オーストラリアと世界的に古紙価格が上昇している。一方、国内メーカーのDIP増設、マシン新設に関して、大手メーカーの資材担当の方がどうやって集めてよいか判らないのというのが正直なところと聞いている。今年、関東地区では段古紙が過熱してくると言われ内外格差が非常に開いてきます。仕入価格が高いため、やむを得ず輸出に出さなければならぬ状況が今後、出てきてメーカーさんへの完納が難しいと言う状況が強くなってくると思われる。一般的に中国も国内の回収率が上がってくる2020年がピークではないかと言われているので、3〜4年は今の状況が続いていくのではないかと思われる。

家庭紙原料について

三弘紙業(株)・森山色上委員長〔東京協組〕

家庭紙原料は、昨年価格修正となりましたが10月〜12月に行き届いた原料供給ができませんでした。今年1月中旬に再び価格修正となりました。家庭紙の古紙原料は、1月2月については、ほぼ予定通りの量を納めることができましたと思われます。今後の見通しとしては、3月は発生時期であり何とか4月と

リクエストに答えていきたいつもりであります。ただ今後は、大手DIPの関係と中国のN社が東京に進出してくる関係で予想がつかなくなる状況になるのではないかと。特にN社は段ボール、雑誌、ミックスを欲しがっていると聞いている。これらの要因から今後、価格の問題や古紙原料が不足してくるのは間違いないのではないかと思われる。

オフィス古紙について

(株) 丸十・高橋委員〔東京協組〕

オフィス古紙の発生は、1・2月は悪かったが最近徐々に増えてきているようである。輸出は、中国向けに産廃業者さんの影響でミックスを含め雑誌の価格が高騰しているようである。産廃業者さんの方が、仕入値が高くて流れていっているのが現状と聞いている。それにもない、更に価格競争が激しく、今まででしたら模造類、込頁、ミックスとに分けていた物が、分けて雑誌として出て行ってしまうのが現状であると聞いている。

輸出価格が上がることによって今後もこのようなことが増えていくのではないかと思われる。

その他の状況について

(株) 富澤・小林委員〔東京協組〕

毎年1月2月は発生が減少する月であると言われてきたが、これが最近では平均化しつつあるのが古紙の仕入状況であると思われる。ただ輸出は、品種別により高値の古紙が流れている状況であります。ケントと違い模造関係の物が輸出対象として引き合いが強くなってきたのが現状です。為替の関係もあるが高い価格の物が出ていると聞いています。これは家庭紙メーカーにお願いしている込目が年末には期待していたほど入ってこなかったこと、個人情報の問題に触れると思つていた物が思つたほど混入されていないということが考えられます。1月に価格調整があつたが輸出との価格差が縮まらない。家庭紙古紙の引き合いは中国だけでなく他国からも出てきている。洋紙メーカーがどういう紙をどういう形でどのくらい使用していくのか、はっきり判っていない。これは新聞との兼ね合いがあり国内DIPで、どのくらい輸出を防ぎ国内に引つ張れるのかで影響が違ってくるのではない。今後、輸出は延びて行く傾向であり、国内のDIP増設による稼働等から、

古紙の需要バランスは裾物を含めて、今年一杯はタイトな状況が続くのではないかと考えられます。

質疑応答

(G・Q) 家庭紙の製品値上げの進捗状況についてどうなのか

(M・A) 2月20日に東京で九州・愛媛・岐阜・大阪・静岡、東京のメーカーが集まり製品の適正価格について会議を開いた。その結果、2月21日より15%以上の値上げを打ち出しました。ただ実際は3月1日と21日にずれ込むのではない。代理店、スーパー、ホームセンター、ドラッグストアは、いい方向に進んでいる。ただ理解してくれるところと、完全に理解していないところがあるのが現状である。最終的には3月21日までには実施されるよう取り組んでいる。大手の方がトレイレットペーパーの価格を上げる方向で措置をとっているが、他は安い物だけをなぐし平均単価を上げていく方向なので、はっきりしたアクションがとられていない状況である。足並みが揃うのは3月21日と4月1日頃になるのではない。

(M・Q) ここのところヤードが増えてきた

と聞いているが、実際はどうなのか

(G・A) 関東地区は、古紙の発生が他と比べると多い。その関係で新たなヤードとして他地区から進出している開設が多い。大手商社が輸出をするのに、古紙問屋への依頼分だけでは回収が難しい。自社での回収力も必要のため回収基地を持つようになった。商社に組合としての輸出を依頼していた時期もありましたが、組合内との反発や具体的な扱い回収価格の高値の問題も含んでいる。実際は一般的に出される価格では、たちうち出来ない価格で原料が流れていることが相場全体を押し上げている。ヤードが増えるのがいつ止まるかわからない状況である。現在は、古紙は集めれば売れる場所があり、この先は問題があつても留まることを知らない状況が続くのではない。大手商社でも安定した量を集めるには、1ヶ所では集まらない状況なのが現実である。

(M・Q) 3月からの古紙の発生状況の見通しについて

(G・A) 昨年の12月は、各問屋にある程度の手持ち在庫があつた。年明けに早々にすべての古紙がメーカーへ納入されて行った。

その後、発生は低調であり特に、産業古紙

が弱く低調であった。産業古紙は、紙質が違うことと、無駄を無くすためか切った幅が以前より非常に狭くなってきた。このためプレスがかかると見た目より量がいかなのが現状である。模造は、年末はある程度、出なくてはいけなのが出ていない。オフィス系も思ったほど発生がない。1月2月は、なんとか納入できたが、1社あたりで出てくる量が減っていた。見た目よりは出ているようで、実際に量ると量は出ていない状況である。3

月4月は、月刊誌も出てくるし、オフィス系も出てくるだろうし、商業印刷も忙しくなってくるだろうと思う。ただ、出版関係は延びて行く可能性がないので、産業印刷系に期待をしている状況である。

(M・Q) 古紙の回収の全体量は、これから減るのか増えるのか。

(A・Q) 2000年が消費量としてはピークであった。紙の消費量は今年も増えると予想されている。これからは使える原料をどれだけ拾い出せるか。産業古紙が減る変わりに別の古紙を混ぜる等、何でも紙であれば集めないと足らなくなるであろう。回収は限界にきている。中国では分別をしなくてもかまわないので輸出が増えたので、これは止められ

ないであろう。中国国内でもヤードが増えさらに集めようとしている状況である。

(M・Q) 集団回収を組合から呼びかけできないだろうか。

(G・A) 全国の各自治体を取り組んでいる。問題点は単身者のマナーを守らないゴミの出し方にある。紙類の入ったゴミは中国が逃げ場になっている。ある程度、分別された物は価格が高く落札され中国に輸出されてしまう。(M・Q) 原料の引きが強いが価格は今後どうなるのか。

(G・A) 国内のDIPの増設や中国の古紙依存の要因から流れは変わらないと思われる。1月は在庫が極端に落ちている。通常の流れと今年は違ってくると思われる。1月に国内が上がりつつも輸出がすぐ上がってしまった。

原料の値上げについて中国がいくらまで買うのかも問題点である。日本が古紙不足になった場合、アメリカから高値で買わなくてはならない場面も出てくるのではないか。問屋は国内価格で考えているが出す方は輸出価格を基準に考えている。今年是国内からも中国からも古紙が大変な年になるであろう。

*次回開催 平成19年6月25日(月)

第4回合同新年会を開催

広報部 副部長 脇 克美

平成19年1月20日(土) 日暮里のホテルラングウッドにて恒例となりました各支部合同新年会が開催されました。今年は天候にも恵まれ120余名の参加をいただき、新井勝夫(足立)、藤井潔(荒川)両支部長の司会で午後6時に開演されました。

皆川理事長より新年の挨拶をいただき、今年のアトラクション、クラシック(声楽)ということ、酒、タバコはひかえて音楽を鑑賞するという趣向で先にミニコンサートを楽しました。演者は、文京支部の清水広報部長の奥様とご友人のテノール歌手の二人。ピアノ演奏で日本の歌曲、オペラ、オペレッタ、カンツォーネ等、様々な曲を歌って頂きました。ちなみにオペレッタとは喜劇調の小劇の曲で、カンツォーネとはイタリアの大衆歌曲だそうです。盛大な拍手でミニコンサートが閉幕しました。



その後、栗原全原連理事長の来賓のご挨拶、深田関東商組理事長の乾杯のご発声で、いよいよ自由歓談となりました。飲み放題のお酒と美味しい中華料理で会場も盛り上がりしました。

各支部代表によるカラオケ大会の始まりです。代表のかただけあって、皆さん大変な名



歌手の方々に楽しませていただきましたが、庄巻は、やはり皆川理事長の「ギンギラギンにさりげなく」ではなかったのでしょうか。楽しい時間は、あっという間に過ぎるもので両司会の挨拶の後、散会となりました。



東京返本加工協同組合

新年会開催

事務局

東京返本加工協同組合（理事長・藤井康夫）は1月31日（水）午後6時より上野『精養軒』において平成19年新年会を開催致しました。

当日は取次販売会社の日本出版販売株式会社並びに栗田出版販売株式会社の幹部社員の方々、そして日々の業務で大変お世話になっております出版共同流通株式会社の幹部の方々、日頃より力添えを頂いております会計事務所、社会保険労務士、協力会社の皆さま、親組合からは皆川理事長、夏目事務局長にご出席を賜り組合員・役職員をあわせ50余名にて新春の情報交換のイベントとなりました。齋藤米蔵理事の司会進行で登壇した藤井理事長は昨年の40周年の記念行事が有意義となった旨の感謝挨拶のあと出版共同流通株式会社が本年5周年を迎えるに当たり更に連携を深めた仕事造りに精進したいとの力強い挨拶を致しました。来賓を代表の出版共同流通株式会社高見吉弘社長（日本出版販売株式会社・常務取締役）は5年目を順調に迎えるこ

事業部、青年部、そして各支部長を始め、ご協力いただいた皆様にお礼を申し上げます。

とが出来たことは東京返本加工協同組合の協力なくしてはあり得なかった、これからも一層の協力関係の中両者が儲かる商売を積極的に推進して行こうとのご挨拶を頂戴致しました。



皆川理事長は組合会報新春号の藤井理事長の挨拶を引用し書籍の現地処理等の東京返本加工協同組合が取り組んでいる新しい仕事に対し最大限の賛辞を贈って頂きました。乾杯は平成6年に初めて雑誌の現地古紙化処理事業を開始した当時より組合に対しご指導を

頂いております。石川公也様が今般栄転されることとなり、当時から思い出話等を交え参会者の喝采の中杯を合わせました。

懇談ののち、始めての出席者の方々のカラオケ交えた自己紹介で大いに盛り上がり、福引抽選会へと移りました。福引は年末より手配した某デパートの福袋が用意されており、当選者が出る度に会場からは大きな歓声が上がることとなりました。会は20時過ぎ山中明徳副理事長の中締めにて盛会裏に終了いたしました。



支部便り

城南支部 新年会

城南支部長 坂田 智

恒例の城南支部新年会は2月の3・4日、箱根湯元のホテル河鹿荘へ一泊旅行を行いました。集合は、新宿15時10分のロマンスクーで13人、又、車で1人の合計14名にて。

車内では、焼き鳥と漬物を肴に酒を酌み交わしながら、和気あいあいと盛り上がり90分という時間は、あつと言う間に過ぎ湯元へ到着。徒歩でホテルへ。宴会まで1時間の間に温泉へ、仕事、旅の疲れを癒してさっぱりとした気分での宴会が始まりました。

私は、前日の理事会後の飲み会で、隣りに坐られた近藤勝副理事長と新年会の話をしていましたら、なんと河鹿荘の専務さんと大学の同級生という事で、その場で電話をして頂き、宴会では大きな船盛りをサービスして頂きました。城南支部にとっては、この1年、幸先の良いスタートとなりました。本当にありがとうございました。宴会は、コンパニオン3名と共に楽しく過ごしました。又、幹事

さんは坂田副理事長の寄付の元、ビンゴゲームで盛り上げてくれました。

翌朝は、朝食後にチエックアウト、そして湯元の商店街にてお土産を購入して帰路へ。車内でのアルコールもすずんだ頃、新宿へ到着。一同、幹事の梶野さんと井出さんにお礼の挨拶の後、解散となりました。

組合員の広場

歌舞伎のこと

副理次長 坂田秀一郎

歌舞伎では食べ物が出てくる場面がある。ビール（歌舞伎ではない）は本物でないとダメなのはTV・映画でもお馴染み。

お茶、お茶を点でて接客する場面もあるが江戸時代、お茶というと「お茶を一服食べた」などというわけで、当時お茶というものが男女の情交を意味したらしい。又、山吹色の茶を一服といえ、だいたい察しがつくだろう。情交といえ小猿七之助が奥女中の瀧川に「お情け」を頂戴したいと迫る場面もある。このお芝居は、江戸時代はすこりリアル

に演じたそうであるが、現在は、真ン中部10分はカットしている。

蕎麦を食べる場面もあるが「天で一本付けてくれ」と注文するが、生憎天ぶらは品切れ、仕方なく蕎麦を食べるが、これが庶民生活のスケッチで粋な江戸っ子の蕎麦の食べ方を小気味よく本物の蕎麦で食べる。これがすばらしい拍手喝采である。ツルツルという音がとてもいい。

肴といえ酒のおつまみ、酒の肴で一杯とかいう。肴というのは食物の他に酒席の座興として歌とか踊りとか又、隠し芸とか面白い話題も肴という。「何ぞ肴いたせ」と声が飛べば舞踏が演じられる。今でも我々、酒の肴にされたなどと言う時がある。女形芸のひとつには本物の大根を千六本に刻む。劇場内にトントんと軽やかに包丁の音を響かせるところもある。これは本物の大根で演じる。役者の見せどころか。江戸っ子の粋な食べにも目に青葉・・・の「鰹」が出てくるお芝居があるが、この「鰹」はハリボテである。江戸時代の心気が感じられる芝居で観ていて気持ちが良い。現在は、おろし生姜とか、んにくで食べる。江戸時代は大根おろし、味噌や酢で食べていたらしい。

納豆騒動で思うこと

広報部長 清水弘允

年明け早々、スーパーの店頭から納豆が姿を消しました。あるTV番組で納豆ダイエット効果が報道された直後だったので、その因果関係は明白でした。偶然、私はそのTV番組を見ていたので今更ながらTVの威力を見せ付けられたと言う思いと同時に、いやな予感がしました。

この事件の顛末は皆さんもご存知と思いますが、一応説明しましょう。フジテレビ系列で全国放送された「発掘あるある大事典Ⅱ」で、納豆にダイエット効果があることが取り上げられました。出演者が実験に参加し納豆を食べたところ、ダイエット効果があったと言うのです。実験の結果が数字で発表され、米国の大学教授がそれを裏付けるコメントを述べたのです。それを見た多くの視聴者が納豆買いに走り、納豆の売り切れ店が続出しました。ところが発表された実験数字は、実はでっち上げで、大学教授はそんなコメントをしてなかったのです。納豆の実験に米国の大学教授がコメントするのも不思議な話ですが、食事を減らすどころか余分に納豆を食べて

ダイエット出来るとする説明に、納得行かなかったのは私だけではなかったと思います。

納豆に罪はありませんが、似たような事例は過去何度もあったのに、何故こう言うトラブルがなくならないのでしょうか。

まず第一に挙げなければいけないのはTV局側の姿勢です。公共の電波を使って、この様な不確かな内容の番組を流す事は有ってはならない事です。しかも今回は不確かと言うよりは明らかに捏造であって悪質さが目立っています。こう言う事が起こる背景として、TV局間の視聴率競争、利益優先主義、下請け制度などが挙げられると思います。TV局は報道の自由、公正と正確性を確保しながら、一方で売上、利益追求というビジネス上の成果が求められます。相反する目的を共に実現しなければならぬ難しさは分かりますが、それを実現して初めてTV局の存在価値があると思います。今回の問題も氷山の一角と見るのが妥当でしょう。TV局は信頼回復の為にあらゆる努力をする必要があります。

しかし、もう一つ重要な問題があります。それは視聴者側の問題です。今回の事件だけでなく、我々日本人は、最近余りにも騙されやすくなってないでしょうか。他人の話に耳

を貸すのは大いに結構ですが、自分の考えをまずしっかり持つ必要があるでしょう。納豆を食べて、そんな簡単に痩せられる訳がありません。納豆はもともと健康に良い食物として古くから日本人に親しまれていますが、ダイエットに効果のある薬ではありません。今までもこの手の番組で、もてはやされた食材が色々あります。古くは「紅茶きのこ」が流行りましたし、ポリフェノールが良いといつてココア、赤ぶどう酒が売れたり、「にがり」が色々効果があると言われたり……。今でも、怪しげな発毛剤、癌に効くサプリメントなど繰り返しTV・新聞等で宣伝されています。また元銀座のママという怪しげな女性や、したり顔で人の運命を予想したり、スピリチュアル・カウンセラーなどとカタカナ文字で煙に巻いた男性が、根拠のない霊界の話をしています。

また儲け話にまつわる事例も事欠きません。沈没船の財宝を回収する資金を提供してくれば凄く儲かるとか、私と交際してくれれば何万円支払うから是非とか言う女性からのメール等、ちよつと考えればあるはずのない話が、繰り返し出てくると言う事は、それに騙される人がいると言う事でしょう。

学生時代に、エーリッヒ・フロムと言う社会学者の「自由からの逃走」と言う本を読んだ事があります。第一次世界大戦後のドイツで、なぜ人々がナチズムに引きずり込まれて行ったか、その社会現象を分析し原因を人間の本性に求めた本です。それによれば人間とは弱いもので、自由があり過ぎていつも自分で物事を判断しなければならぬとか、人生の進むべき方向を自分で決めなければならぬと言う事は、実は大変苦しい事で、人から指図されたい、決めてもらいたいと言う潜在的な弱み、欲求があると言うのです。

政治に当てはめてみれば、大衆と言う層があり、その層は潜在的に誰かに導いてもらいたいと言う願望があると言うのです。逆に言うと指導者、独裁者として君臨した者は、大衆に取り入ったけれども、同時に大衆からの支持がなかったら指導者、独裁者たりえなかった訳です。独裁者に虐げられた大衆と言う言い方がありますが、その独裁者を生み出したのは大衆だと言うのです。ヒトラーは革命で政権を取った訳ではありません。選挙で大衆に選ばれて指導者になったのです。

人間とは不思議な動物で、無い物は欲しくなるが、手に入れてしまうと、その有り難味

を忘れてしまいます。歴史を振り返れば自由を求めて多くの人々が戦い死んでいきました。それ程自由は価値の高い、尊いものです。しかし現代の日本には自由が溢れて、その有り難味が分かりません。

日本人は平和ボケして、精神的にも肉体的にもひ弱になってきている様に思えてなりません。国際社会で、日本人はお人好しと思われる事が多いようです。日本は外交交渉が上手いとはいえないし、外国を旅していても、同じアジアでも中国人、韓国人と較べ、日本人のひ弱さを感じます。日本人は「和をもって尊しとする」立派な文化を育んできました。他国に誇れる立派な価値感ですが、ちよつと扱いを間違えると、組みし易い日本人と取られかねません。お人好しを卒業して、もう少し厳しくならなければいけません。

昔、ベストセラーになった「日本人とユダヤ人」と言う本で、日本人は水と安全はただで手に入ると思っていると指摘されました。いつまでも、お人よしの国民でいる余裕はありません。資源のないわが国が生き残って行く条件として、次世代への教育を怠らず、人間と言う資源を育て、自分と言う座標軸をしっかり据えて判断できる、簡単に騙されない

人間を作っていく事が、不可欠ではないでしょうか。

お知らせ

会

〔3月会議・催事予定〕

3月2日(金) 常任理事会 (pm2:30)~
理事会 (pm4:00)~
組合会議室

3月6日(火) 東リ協会研修会

講演会 (pm5:00)~
懇親宴 (pm6:40)~

Hラングウッド

3月10日(土) 集荷部会 (pm6:00)~

組合会議室
研修会 (pm7:30)~

銀座「天國」

3月12日(月) 古紙センター業務委員会
(pm2:00)~

古紙センター会議室

3月12日(月) 全原連役員会 (pm3:00)~
古紙センター会議室

3月22日(木) 古紙センター関東地区委員会
(pm2:00)~

古紙センター会議室

3月23日(金) 古紙センター静岡地区委員

(am11:30)~

フジロイヤルプラザホテル

3月26日(月) 支部長会議

(pm4:00)~

〔会社組織変更〕 荒川支部

旧社名 渡邊 商店

(代表者 渡邊 孝夫様)

(新) 株式会社 ワタコー (平成18年

6月)

となりました。

代表者・住所・電話番号・FAXは従来通りです。

*掲載が大変遅くなりましたことを、ここにお詫び申し上げます。

〔古紙価格〕

〔東資協の古紙4紙の標準売値〕

平成19年2月8日現在

*新聞 8~9円 (上昇)

*雑誌 4~5円 (横這い)

*段ボール 5~5.5円 (横這い)

*色上(並) 4~5円 (下値上昇)

関東商組の融通(共販) 事業

〔平成19年3月度実施の共販価格(kg当り)〕

〔新聞 古紙〕 休止

〔段ボール 古紙〕 休止

訃報

城南支部 瀬口商店

(代表者 瀬口和彦様のご尊父

瀬口 繁雄 様(享年77)

平成19年2月9日逝去

会議概要〔平成19年2月〕

1月度定例理事会

〔平成19年1月15日（月）〕

出席理事 24名 於 組合会議室

p m 4 : 0 0

皆川理事長挨拶

明けましておめでとございます。昨年、1年、皆さんの絶大なご協力をいただきまして無事に組合の運営ができ、お陰さまで本年最初の理事会を迎えることができました。本年も引き続き大変、流動性の高い雰囲気になっっている年初であります。今年1年大きな波乱があると思いますが、波乱に向かう過程ではもう一段、皆さんのご協力を仰がなければいけない事態があるのではないかと思っております。

本日、正副理事長・事務局とで官庁及び古紙センターへの年始の挨拶に行きました。例年なら挨拶のみで終わる事が多かったのですが、古紙の関心が高まっていることもあり、今年は時間をかけてお話をする場面もありました。今年は、一社でも組合員の数が増えていくようにならないかと思っておりますので一致団結してよろしくお願い致します。

〔各部報告〕

〔直納部〕 年明け早々にO製紙が新聞の値上げを発表した。昨年から輸出価格が上がってきて国内との内外格差が問題になってきており、これは是正の一貫ということで国内メーカーが輸出増の動きに対して、確保にやっきになっている状況だと思います。しかしながら、1月の輸出価格は12月よりもさらに上昇し、今年は大変な古紙不足の年になるのではないかと予測しております。昨年末25日に臨時の静岡県紙業協会家庭紙部会との三団体懇談会が開催されました。東京協組からも8名参加しまして、現在の状況とメーカーとの協力について話し合いました。後程、詳細につきましては森山色上委員長から報告していただくことになっております。

11月の古紙の輸出数量は、315、二二七tで前月比83・6%、前年比98・1%、輸出価格が上昇しているのにかかわらず、国内メーカーが確保に動いていることで減少しました。累計では、二月までで約355万tで予測していた400万tを少し切る状況になっています。今月の関東商組の共販輸出価格について、段ボールは2口とも店頭で13

円20銭、共販輸出振替分として13円2140銭。新聞は、店頭17円、雑誌は14円30銭で雑誌価格は段ボールよりも1円高い価格になっている。

1月31日に臨時で共販委員会を開くことにした。現在、東京協組で行っている共販輸出につきまして、輸出先の中国が国内の動きと連動しないので価格差がひらく見通しとなってきた。今後、状況によっては、共販を国内に切り替えるかどうかについて委員会で再度検討したいと思う。

〔品種別市況報告〕

〔上白・特中白〕 上白につきましては、パルプ高の影響で引きが強く、特に輸出に關しましては国内より高く好調であります。特中白につきましては、パルプメーカーが今月から2円値上げを一部打ち出しまして追従すると思われまます。パルプは北米産LBKP、11月積み価格は1t 720\$、ブラジル産LBKPは1t 650\$となりました。国産価格の値上げが決まり日本製紙、三菱製紙はLBKP5円の上げとなりました。輸入品高で割安感の強まった国産品の需要はますます旺盛になりました。

〔家庭紙原料・切付〕

12月25日に臨時の

静岡県紙業協会家庭部会との三団体の懇談会を開催した。2月に新聞、大手の価格が上がるということで家庭紙メーカーに価格、品質、支払い条件の違いについて変えてもらおうとお話をした。1月にまとまって東京で話し合いの場を持つ提案をしたが、残念ながらメーカーと問屋の個々の対応という結果になってしまったようである。今年の9日にO製紙が新聞、チラシ、切付が2円、16日から値上げとなる発表があった。これに伴いN製紙も値上げとなった。9日の発表をもって16日より8〜9割がた家庭紙原料も値上げとなるのではないかと。中国が旧正月にあたる2月18日の1週間前後が休みとなり動きが弱くなるが、ここでもうひと波乱あるのではないかと読みと、ここで相場が落ち着くのではないかと読みがある。

【新聞・雑誌】 新聞、雑誌、切付が16日から2円値上げになるが、それでもまだ輸出価格との差がある。国内メーカーでは少しでも量を多く入れて欲しい要望が非常に多い。【ダンボール】 ダンボールの輸出は若干上がったが三品の中では出遅れている。引き合いは強い状況である。

段ボール原紙は、増産、増量があり今後、引

き合いが強くなると思われる。発生に関して昨年暮れは少なく、スーパー関係では例年になく発生減であった。在庫率は今までで最低であった。

【返本雑誌】 ここにきて新聞の値上がりによりザラが若干、上がるのではないかと予想をしている。返本組合等でも販売価格の値上げの要請をしているところである。

【オフィス古紙】 輸出の方で雑誌が、もし上がるようなことがあれば、オフィス系にもつと雑誌が入っていくのではないかと思われる。さらに家庭紙へまわる分が減っていくのではないかと。

【集荷部】 昨年10月に家庭紙原料の価格があがり大変助かった。今年になって、又、家庭紙があがるように喜ばしいことであるが、発生の方がだんだん少なくなってきている。発生が少ないので商売の方が成り立っていくのかどうか心配である。価格が上がると逆有償や、その他、色々問題点が起こると思うが、価格が少しずつでも改良されれば直納も集荷も強くなっていくのではないかと。これからも集荷の部会を開き検討をしていきたい。

このところ製本関係も発生は少なく、商業

印刷系でも相変わらず発生が少ない。

【広報部】 広報新年号の印刷にかかっている最中である。新年号なので正副理事長と返本組合理事長の新年の挨拶を掲載しており、各支部より暮れの忘年会の記事を沢山いただいている。これに中国研修についての記事も加わり28ページほどとなっており、17日頃のお届け予定である。月末には3月号の検討に入り皆様に原稿のご協力をお願いすることになると思う。

【事業部】 合同新年会について。5時半受付で役員、常任理事、支部長の集合は5時。参加人数は本日現在で119名。席は各支部ごとのテーブル席。料理は中華で飲み放題。6時開演で最初に清水さんの奥様、他2人でクラシックのミニコンサートを行う。尚、基本的にミニコンサート中は禁煙である。7時より乾杯に移り、その後、カラオケ大会となる。中締めを8時半頃を予定している。12月26日に急遽、ホテルの下見と打合せをしたので準備はほとんど済んでいる。理事会終了後に最終打合せを予定している。

〔青年部〕 合同新年会の受付、カラオケの司会、進行を担当しすすめていく。

古紙センター

〔関東地区委員会〕

〔平成19年1月24日(水)〕

PM4時～ 於 古紙センター会議室

〔需要動向〕 06/12月

単位トン、()は対前年同月比、

在庫の()は在庫率

〔関東商組32社実績〕

〔新聞〕

仕入	100、226 (104・9%)
出荷	97、139 (104・9%)
在庫	10、837 (11・2%)
〔雑誌〕	
仕入	67、890 (102・2%)
出荷	63、747 (101・9%)
在庫	9、150 (14・4%)
〔段ボール〕	
仕入	150、016 (105・0%)
出荷	144、323 (106・6%)
在庫	16、404 (11・4%)

〔関東・静岡実績〕

〔新聞〕

入荷	268、131 (106・1%)
消費	259、437 (105・4%)
在庫	186、574 (71・9%)
〔雑誌〕	
入荷	130、768 (97・5%)
消費	121、521 (97・8%)
在庫	61、956 (51・0%)
〔段ボール〕	
入荷	320、178 (103・8%)
消費	290、873 (103・3%)
在庫	120、261 (41・3%)

18年累計〔平成18年1月～12月〕

〔関東商組32社実績〕

〔新聞〕

仕入	1、061、823 (108・3%)
出荷	1、064、382 (108・5%)
〔雑誌〕	
仕入	728、195 (103・2%)
出荷	729、136 (103・1%)
〔段ボール〕	
仕入	1、584、009 (102・1%)
出荷	1、586、481 (101・8%)

〔関東・静岡実績〕

〔新聞〕

入荷	2、979、910 (104・5%)
消費	2、952、894 (103・1%)
〔雑誌〕	
入荷	1、527、691 (99・5%)
消費	1、517、711 (98・2%)
〔段ボール〕	
入荷	3、546、619 (100・7%)
消費	3、533、849 (99・6%)

〔業者側コメント〕

〔新聞・雑誌〕 新聞については推測で12月は昨年対比102%の伸びになったのではないかと。毎年の同時期を比べても、この時期はほとんど差がないことが多いが、そんな中で2%の伸びは大きいと思う。徹底回収があったのではないかと考えられる。輸出は、12月は伸び悩む。

雑誌は回収量で、前年比108%と非常に大きな伸びをしめしている。新聞と雑誌の合計の回収量は前年比30万tと伸びている。これは行政の回収と輸出価格の影響を受けているのではないかと。中国は旧正月を控え価格が

伸び上がっていないので、明けには若干の不安がある。中国国内の消費は、板紙、白板を含んで350万tの消費がある。需給は底が固い動きが続いている。価格問題は柔軟な対応をお願いしたい。

〔段ボール〕 段ボールは一年間大変、順調に回収されたのではないか。今後、中国が今年増設が著しいので、その影響を受けるのではないかと思われる。2007年は中国が400万t増えるのではないかと聞いている。

機械を動かすために原料を日本に買いに来ると思われるので、それに答えるには集荷を増強するしかない。今後、仕入価格がどのへんが適正なのか十分に協議しなくてはいけないのではないか。

〔メーカー側コメント〕 12月の段ボール入荷は例年どおりであり、後半には荷物が入ってきた。1月は12月に比べると入荷ペースが悪い。段ボール原紙は横這いの状況。在庫は関東地区では、そこそこ増やしている。新聞は12月の入荷はどのメーカーも良かった。在庫率は11月末で104・5%、回収率は103%であった。メーカーの消費は、だんだん上がってきている。

古紙センター

業務委員会

〔平成19年1月25日（木）〕

PM1時30分～ 於

古紙再生促進センター

〔1〕 全国古紙の需給・市況動向

〔H19年1月度報告〕

詳細につきましては、紙面の都合により割愛させていただきます。

〔2〕平成19年度国庫補助金（内示）について

19年度内示額 3、964万円で

18年度予算費 95・9%

〔3〕平成19年度事業計画（案）について

1. 古紙品質安定対策事業

1) 古紙品質向上対策検討委員会の設置

2) 古紙品質点検実践事業（仮称）の推進

3) 雑がみ分別回収事例の調査

2. 広報宣伝事業

(1) 国庫補助対策事業

1) 紙リサイクル講習会の開催

2) 啓発用チラシ・マニュアル・ポスターの作成、配布

3) オフィス古紙リサイクル研修会の開催

(2) 自主事業

1) 普及啓発キャンペーン

2) センター会報・古紙統計の作成、配布

3) センター顕彰制度

4) グリーンマーク

5) 紙リサイクル経験者の活用

3. 調査研究事業

(1) 国庫補助対象事業

1) 製品輸出に付随する梱包材等紙製品の
実態調査

2) シュレッダー古紙の実態調査

3) 紙リサイクルセミナーの開催

4) 地方自治体の古紙関連施策等調査

5) 古紙利用新規用途実態調査

6) 国際リサイクルシステム構築基礎調査

7) リサイクル対応型紙製商品開発促進事業

業

(2) 自主事業

1) 古紙消費計画調査、古紙需要動向把握

2) 家庭から排出される段ボール古紙の実態調査

態調査

3) 外部調査委員会への参加

4) その他の委員会及び啓発活動等

4. 債務保証事業

5. その他の事業

①今後のセンターのあり方を検討する委員会の設置

②地区委員会活動の強化

〔4〕古紙品質認証制度研究会報告書について

紙パの状況 (単位:千t)

①紙・板紙の生産、販売、在庫

12月 生産量 前年同月比 出荷量

前年同月比 在庫量 在庫率

段原紙 774 99.6 796

合計 100.5 314 39.2%

2、594 99.7 2、587

100.8 1、984 74.5%

②古紙の入荷、消費、在庫

12月 生産量 前年同月比 消費量

前年同月比 在庫量 在庫率

古紙合計 1、462 103.1 1、383

102.0 73.1 52.9%

段ボール 690 101.5 654

101.5 2、630 40.3%

③輸出古紙 段ボール 新聞 雑誌

その他 合計 71

11月 144 48

52 315

④関東商組の輸出価格 (新聞) (雑誌)

1月 71

52 315

144 48

71

価格 建値 為替 価格 18

建値 為替 価格 建値 為替

13.21 \$138 ¥117.5

0 170.6 14.41

\$170 ¥118.30

\$148 ¥117.5

⑤原油価格 1月 14.41

ドバイ原油 \$50.56

〔市況動向〕

〔第一部会〕上物古紙

産業古紙は12月中旬以降非発生期に入り、入荷は低調である。洋紙各社のDIP増設と輸出価格の上昇により洋紙系古紙の安定確保が困難な状況になっており、その代替品として上物古紙の引合がますます強まってきている中、一層タイトな状況になってきている。

〔上白〕発生が少ない中、輸入パルプの上昇に伴い、値戻し・引合が出てきており、非常にタイトな状況にある。

〔特中白〕同じことが言える。

〔家庭紙ケント〕雑誌の輸出価格上昇により、価格差が縮小してきている。その結果、家庭紙向けの古紙が雑誌として輸出シフトが急速に進んでいる。昨年10月の値上げ実施

古紙センター
静岡地区委員会

〔平成19年1月30日(火)〕

p m 4時30分(於)

フジロイヤルプラザホテル

出席者:メーカー7名・業者23名・事務局

5名

〔堀内委員長の挨拶から〕

本年もよろしくお願いいたします。

12月の紙・板紙の生産・販売・在庫状況は次の通りです。段原紙の在庫314千tというのは久々の低い数字です。このレベルで維持できれば製品価格も堅調に推移するのではと思う。

後も、各家庭紙メーカーは必要量の確保がままならず、タイト感ほ払拭できていない。そのため、各家庭紙メーカーは1月16日から再度すべての銘柄を2円上げた。洋紙・板紙・色上につき、大手洋紙メーカーの消費増により、昨年9・10月と建値が動いたが、家庭紙古紙の値上がりにより、価格差が現状逆転したような状態になっている。必要量確保のため、各社ともプレミア対応をしているように聞いている。

〔板紙ケント〕 上物・特殊の相次ぐ値上げにより、品質格差を前提にした価格差が縮小したような状況になっており、選別メリットが薄れてきており、非発生期とも重なり逼迫している。

〔切付〕 洋紙系古紙の安定確保が困難な状況の中、1月16日洋紙メーカーから値上げの発表がなされた。それにより、洋紙用原料という形で切付が今後動いてくるのではないかと。一層タイトで、確保も心配される状況になっている。

〔業者側コメント〕 1月は正月もあり日数が少なく、非発生期でもあり、全般にどの品種も発生が悪い。上白はパルプ高の影響で輸出が活発になってきて、逼迫している。特中

白も同じような状況で、価格修正があったが逼迫状況にある。色上・上ケントは1月中旬家庭紙メーカーで価格修正があったが、引き続き発生が悪く、不足気味になっている。オフィス古紙もまだ発生期に入らず、不足気味である。切付は1月中旬に価格修正があったが同様に発生が少ない状況にある。

「第二部会」新聞・雑誌

〔新聞〕 新聞の11月度の通関実績は約48,000tで前年月比で80%。中国向けは約43,000tで前月比13,000tの減少となっている。輸出価格は11月15・20円、12月17・06円と高値で推移しており、11月度も輸出量の増加が見込まれていたが、輸出価格の上昇とは結びつかない状況になっている。2月度の中部商組の輸出価格も雑誌・段ボールの価格が続伸しており、関東商組でも高値で推移されることが予想される。こういった状況下で、静岡地区では年末に在庫を吐き出した感もあり、また1月に入って、学校の集団回収の減により、各メーカーへの入荷は盛り上がりに欠けている。

〔雑誌〕 雑誌の11月度の通関実績は、約72,000tで前年同月比で102%。中国向けは約67,000tで前年比13,000tの減少となっている。輸出価格は11月12・45円、1月14・41円と高値で推移している。2月度の中部商組の輸出価格は15・8円と高値がでており、関東でも高値が予想される。静岡地区の発生は大きな落ち込みはないものの昨年来発生は悪く、数量は出ないものと見られる。1月度については、後半にかけて盛り上がりに欠けて各メーカーは依然として配合変更などをして対応している。

〔業者側コメント〕 新聞の昨年の累計は、

関東商組32社の集計で入荷が前年比108・3%、出荷が108・5%と、共に高い数字になっている。これが発生の実態を表しているかどうか若干疑問を感じる。年末在庫は約10,800t、在庫率11・2%と低い数字になっている。12月の在庫率としては、統計を取り始めた昭和59年以降の中で最低である。集荷不良・輸出価格と垂離によって、値上げがあったと思うが16日から2円値上げをしていただいた。その後、輸出

価格がかなり続伸して、関東商組では1月の輸出から170\$・17・06円であったが現状ではすでに180\$といわれ、円安もあり18円台半ばになるのではないか。

雑誌の1年間の累計は入荷103・2%、出荷103・1%、在庫は14・4%であった。雑誌は61年から統計を取っているが、一番在庫が低かったのが平成2年12月の12%でそれに次ぐ低さである。ちなみに雑誌の最高の在庫は平成8年に実数で25、000t、率で52・8%であった。輸出価格は1月は148\$・14・41円であるが、これも今は153〜154\$・15円半ばまで上昇している。中国の需要のピークは既に過ぎたと思われるが、需要全体は底堅い。中国メーカーの稼働力では吸収できないというところで、旧正月明けには白板の製品値上げという話もある。ただ、増設もあり、浸透するのが疑問だともいえる。

「第三部会」段ボール

昨年1年間の段原紙の生産は前年比100・1%、出荷が100・3%と微増ではあるが4年連続で前年を上回った。天候不順により、青果物は低調であったが飲料加工食品

関係が好調であったことで、このような結果になったと聞いている。12月は生産が前年比99・6%、出荷が100・5%であった。出荷は4ヶ月振りに前年を上回った。1月は前半はよかったが、後半にかけて出荷が落ち込んできている。段ボール古紙の12月の入荷は各社、完納あるいは若干未納であったということであるが、ほぼ計画通りであったといえる。静岡地区の在庫を見ると11・12月とほぼ横這いであった。1月前半の入荷は好調であったが、20日過ぎから落ち込んでいる。今月は未納がでるのではないかと思われる。

「業者側コメント」

段ボールの1月度の発生状況は、年明けから上旬は年末の払出しがある程度あったというところで、そこそこの動きがあったが、中旬以降冬場の非発生期で現在かなり落ち込んだ状況が続いている。昨年1月の入荷実績は前月対比で80〜85%で、今年も12月に比べ1月は15〜20%落ちるかと思う。2月は中部・近畿で多少100%を越えたところもあったが他の地域では100%を割り込んだ数字が残っている。1・2月は季節的な要

因で自然減というのが数字に表れるかと思う。業者在庫は、関東の輸出を対象とした問屋さんはこういう数字はないであろうが、静岡県内ではランニング在庫だけの状況だといえる。輸出であるが、中国への勢いは簡単には収まらない気配で、さらに今年は国内のDIP増設に併せて、中国の段原紙の増設計画が一部の新聞報道では350〜400万tということ、しばらく古紙全体のタイト感が続くであろう。

価格は、アメリカ西海岸の寒波の影響が大きい、中国への輸出価格が騰がり、それが日本からの輸出価格にも影響を与えたといえる。今年度は輸出価格があまり突出してくると、我々業者としても行政回収を含めた仕入全体の問題が生じてくる。これはお互いの利益に繋がらないわけで、今年は輸出と国内の二重価格にどのように取り組むかという問題を解決していかなければという年だと思う。

「質疑応答から」

Q: 切付が16日から値上げということだが更系のものか?

A: 全てである。価格は新聞より1円安である。糊付(残本)新聞の店頭価格の1円落ち。

糊無しは新聞と同値ということである。

(事務局連絡)

* 次回の地区委員会・活性化行事

3月23日(金) 地区委員会 11:30

4月28日(土) 活性化(ゴルフ)

共販委員会

〔平成19年1月31日(水)〕

出席理事14名(於)

組合会議室 pm4:00

皆川理事長挨拶

引き続き、古紙の市況が難しくなってきたので本日は皆さんのお知恵を拝借したいのでよろしくお願いいたします。

共販輸出について

12月に直納・共販合同委員会会議を行い11月に遡り11月と12月の共販輸出価格を修正した。1月は、まだ価格が決まっていない。1月の共販輸出に対し次ぎの内容に関するの意見交換をした。

①今後、国内の需給にかかわらず輸出を続けていくのか

②輸出だけではなく国内向けに変えていくの

か

③他の販売先を検討すべきなのか

輸出だから組合で行う意味があり協力をしてきた。洋紙、家庭紙において今後、何かあった場合でも輸出があるからと答えられる。今まで、せつかく輸出を継続してきたので今後も行っていくべき等の意見があった。

結果、会議参加者全員の意見が、このまま輸出を続けていく事で一致した。

1月の共販価格に関しては、M社からまだ回答がきていない状況であり、現在、1月未までの韓国のテストケースの結果待ち(今週か来週)の状態である。仮に市場に合う結果が出なかった場合は、各社に50銭を負担していただき他は、組合助成金で対応していくこととする。

2月度定例理事会

〔平成19年2月2日(金)〕

出席理事 20名(於)

組合会議室 pm4:00

皆川理事長挨拶

1月20日に皆様のご協力で120名近い人数で新年会を賑やかに行うことができました。1月30日に大阪で靖

国紙料(株) 竹内守様お別れの会に組合を代表して行ってきましたのでご報告をいたします。新年会の直後で理事会の集まりが良くない中、本日も役員会を盛り上げていただきましたと思いますのでよろしくお願い致します。

〔各部報告〕

〔総務部〕 3月26日の支部長会までに各支部の支部長、理事、評議委員を推薦してもらいたい。理事は支部の組合員数10人に一人の割合で決めてほしい。評議委員は支部で必要に応じた人数を決めてほしい。

先ほど、常任理事会で皆川理事長が今期限内で体調不良のため理事長を交代したいとの申し入れがありました。高山専務理事も今期で辞任したいということで聞いています。

〔直納部〕

2月26日に静岡県紙業協会家庭紙部会との三団体懇談会があるので、それに向け16日に集・直正副委員長会議、23日に直納部委員長会議を開催する。1月31日に臨時で共販委員会を開いた。国内の需給状況がだいぶ変わってきてコート系のケントについては海外と国内の価格差が出ており、今後どう

すべきかを討議の結果、ここまで輸出を続けてきたのだから今後も多少、国内より価格が低くても輸出する方向で意見の一致をみた。また販売先として他の販売先も検討していくこととなった。

市況は、1月16日から新聞が2円値上げに伴い家庭紙原料、切付、DIP向けに関して価格修正となるようである。しかしながら、輸出価格が1月、2月とかなり上昇しているので何が起こるかわからなく不安が解消されないままとなっている。昨年の輸出量は、1年間で3,886,905t、1昨年に比べて104.8%。新聞については、97.9%と若干マイナスで国内メーカーがスポット対応等の策を講じたためだと思われる。2月の関東商組の共販輸出価格について、段ボールは3口ありメインは店頭で15円32銭、新聞は19円10銭、雑誌は15円62銭で三品とも国内より5円ほど高い。

〔品種別市況報告〕

〔上白・特中白〕 アメリカの住宅建築着工件数が減っているためチップの発生が減り、値上がりをしている状況にある。依然としてパルプ高であり、富士地区でも上白を探しているメーカーもだいぶ増えてきている。

〔家庭紙原料・切付〕 家庭紙原料についてもDIP向けのものについても価格修正になっていくのではないかと思われる。切付についても洋紙・板紙メーカーが引き合いが強く、今後さらに不足感が増すのではないかと思われる。

〔段ボール〕 発生は、12月はいつもの月のような発生状況ではなかった。在庫は最近にはない少ない在庫であった。輸出は先行価格である。メーカーは売れるだけを作っていく状況。暖冬の影響もあり消費関係に影響し発生も少なくなってきたのではないか。内外の価格差を埋める良い方法がなかなか見つからない状況にあるのではないか。

〔新聞・雑誌〕 新聞、雑誌、切付が1月16日から2円上がった。メーカー消費の予想は前年比3%上がる方向で、まだまだ仕入競争が激しくなるのではないか。雑誌は12月集荷が多かったが、1月は少ないのではないかと思われる。新聞、雑誌とも抜取りが多くなってきた。

〔返本雑誌〕 残本の発生は、一昨年と昨年を比べると2~3%増えている。価格面に関しては、本来、新聞が上がれば残本用紙メーカー向けも連動して上がるのだが、今回は1

円の上げでまちまちである。現状は仕入値を上げるのが難しい状況である。

〔オフィス古紙〕 1月は発生が多少出たが2月に入り発生は少ない。雑誌が上がっているので選別をするのが面倒であるとの声が出てきている。

〔集荷部〕 2月に入り古紙の相場は依然として強含みで推移しており裾物、上物総て流れは順調です。しかし古紙そのものの発生が非常に悪く困っている。もう少し活発な動きにならないと営業そのものが行き詰まりそうな感じがあります。今年は今後どうなるのか状況が心配のところです。

集荷部会の開催について日程を現在検討中です。日経等に古紙の価格上昇を伝えるニュースが流れて困惑をしているが、関係団体等は興味を示すと思われるので採算点を熟慮して営業することが寛容であると思われます。いずれに致しても集荷業者は対応策に追われるかもしれませんが。相手先とのコミュニケーション、あるいはすばやい対応が必要かもしれません。

城南支部の業者からの報告で5分位の駐車場で駐車違反の切符を切られたとの報告があつ

た。

〔広報部〕 今度の3月号について2月7日に編集会議を開き掲載事項を決めたい。3月中旬に送付したい。

〔事業部〕 支部長を始め青年部他、新年会にご協力いただきありがとうございます。総勢118名で盛大に終えることができました。司会、進行も時間どおりでクラシックのミニコンサートも好評でした。新年会の会計の収支報告をする。

〔青年部〕 新年会でカラオケの司会、進行等をお手伝いでき無事に終えることができました。

〔その他〕 ①今期で脱退する組合員の説明を該当支部ごとに報告する。
②東リ協会の主催で「専ら物と廃棄物に関する実務的課題」の研修会を行うので参加してほしい。参加申し込みは、組合事務局に申し込み、事務局からまとめて東リ協会に参加費等の事務手続きを行う。研修費は一人一万円。

集・直正副委員長会議

〔平成19年2月16日（金）〕

出席委員 15名 於

組合会議室 pm4:00～

皆川理事長挨拶

本日は、お忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。26日に静岡県紙業協会家庭紙部会との懇談会もあり、それに向けての貴重なご意見をいただきましたので本日もよろしくお願いいたします。

近藤直納部長

10月に家庭紙の値上げがあり、今年の1月16日からはさらに2円の値上げがあった。12月の静岡県紙業協会家庭紙部会との臨時懇談会の際は、品質・価格修正・支払条件をお願いしてきた。支払条件も大分進んできたと思われるし、価格の方も国際価格に近づいてきた。家庭紙メーカーは現在、製品の値上げに取り組んでいる状況である。

森山色上委員長

輸出関係は、古紙が足らず中国は2月の旧正月も動いている状況である。3月に中国の大

手N社が日本に進出してくる。中国の全体のマーケットをどう動かすか注目されてくるであろう。組合としてもどう対応していくか今後、考えなければならぬ。3月に入り様子が変わってくるのではないかと、それに加え輸出価格もさらに上がってくるのではないかと思われる。

小林色上副委員長

発生状況は良くない。家庭紙は予定通り製品を生産できるかはつきりしないのではないかと製品価格は、2月一杯までは旧価格でいくのではないかと思われる。

出版関係の不振は相変わらず続いていくと思われる。商業印刷系は、そんなに極端な落ち込みはないのではないかと。商業印刷系は、地域分散型で分業になってきているのではないかと。

洋紙メーカーの1月の納入はタイトであり2月は完納が大変になるのではないかと。現在は価格が動いても古紙の入荷があるかはわからない。発生状況により家庭紙は不安な状況が続くのではないかと。

集荷部・直納部各委員より

○製本関係は勝ち組負け組に大きく分かれて

おり設備投資も大きく分かれる。発生は全体では横這いか減っている。

○地域分散化され発生元がなくなってきた。

○学校関係の発注が減っている。生徒が少なく教科書も薄くなっている。発生は商業印刷を含め減っている。

○牛乳パックは九州では値上がりしているが富士地区では動いていない。発生は、かなり悪い。

○2月は1月より状況は良くなったが発生は少ない。扱いは小さいところが多く後継者がいないのが問題である。

○新聞の価格は落ち着いてきたが段ボールと雑誌の価格が逆転してしまった。

○輸出関係はパルプ高で今後、古紙が多く使われてくるのではないかと。日本の価格が現状は低い。

○家庭紙の2・8月は、以前は動きが少なかったが、最近では変わらなく集まっている。家庭紙メーカーは安定供給を求めている。今後、価格の不安定感が続くのではないかと。

古紙センター

関東地区委員会

〔平成19年2月21日(水)〕

PM4時〜 於 古紙センター会議室

〔需要動向〕07/1月

単位トン、()は対前年同月比、在庫の()は在庫率

〔関東商組32社実績〕

〔新聞〕

仕入	82、517 (110・9%)
出荷	84、039 (106・4%)
在庫	9、315 (11・1%)

〔雑誌〕

仕入	61、476 (116・0%)
出荷	63、798 (114・1%)
在庫	6、828 (10・7%)

〔段ボール〕

仕入	122、106 (105・9%)
出荷	127、217 (105・3%)
在庫	11、293 (8・9%)

〔関東・静岡実績〕

〔新聞〕

入荷	231、786 (104・3%)
消費	259、047 (105・4%)
在庫	159、313 (61・5%)

〔雑誌〕

入荷	126、540 (102・0%)
消費	114、549 (94・8%)
在庫	73、947 (64・6%)

〔段ボール〕

入荷	273、674 (101・6%)
消費	288、319 (113・8%)
在庫	105、616 (36・6%)

〔業者側コメント〕

〔新聞・雑誌〕 昨年は新聞・雑誌とも20%増の回収量となった。新聞の1月の発生量は前年に比べ大きな差はなかった。海外価格との関係で過激な仕入競争は、ある程度止むを得ない状況である。雑誌は中国の消費が年々100万tづつ増えてきている。

〔段ボール〕 段ボールは、入っては出て行く状況で相変わらず問屋在庫がない状態である。1月度も非常に好調である。80年の歴史ある古紙問屋が3月で廃業する連絡を受けた。価格等の大きな変化についていけないためであると聞いている。二重価格の弊害等があり、古紙問屋がなくなると品質に問題が出てくるので古紙業界も考えなくてはいけないのではないかと。

「メーカー側コメント」 1月の段ボールの入荷は予想より少ない状況であった。各社で1月末の在庫状況はまちまちであった。入荷が減った分、輸出にまわったのではないか。

段ボール原紙の1月の生産は前年対比102・9%であった。昨年1年間では、昨年対比100・2%の生産であった。段ボールシートについては昨年1年間で100・9%の生産であった。輸出に関しては、あまりの急激な輸出価格の変化についていけない。以前から見ると短期間で価格が変化することは考えられなかった。新聞は入荷も悪く在庫も薄い状況である。在庫はこの先、不安である。

直納部・共販合同委員会

〔平成19年2月23日（金）〕

出席委員 14名 於

組合会議室 pm4:00

皆川理事長挨拶

26日に行われる静岡県紙業協会家庭紙部会との懇談会に向けて活発な意見を出していただきたい。

1. 共販輸出について

新規業者候補の（株）ジェーオーピーについての紹介

今後、検討していくこととする。

2. 静岡県紙業協会家庭紙部会との懇談会に向けて

○森山色上委員長

発生は、ほとんどの地域が減少している。輸出関係は、古紙が足らず中国は2月の旧正月も動いている状況である。3月に中国の大手N社が日本に進出してくる。中国の全体のマーケットをどう動かすか注目されてくるであろう。

家庭紙は、昨年11月に比べると落ち着いている。ただ、10社ほどは、まったく足りない状況である。今後、家庭紙は原料を何とか入れてくれとの要望があるのではないか。

○家庭紙原料について

- ・発生は昨年と比べると半分以下である。
- ・扱いは少ないが雑誌に流れている。
- ・こここのところ発生は少し出てきたがメーカーからの注文に追いついていない。

・前年に対し1割ほど落ちている。総体的には出して欲しい要求がある。

・製本関係は、2月は増えているが在庫はない。

・2月は、メーカーは月の前半と後半では変わっており落ち着いてきた。

・発生は少なく例年並み。原料要求にバラツキがありメーカーの格差が感じられる。

・メーカーで機密系を扱っているところは少し余裕があり、輸出はミックスが好調。

・前年の2月よりは出ている感じがするが在庫はない。

・発生は前年並みで良くない。国内メーカーの要求はそんなに強くない。

・入荷は落ちてきているがメーカーからの要求は前より少なくなった。

・1月は少し良かった。2月は昨年並みで安定供給できた。

○家庭紙メーカーについての要望ほか

- ・支払条件の改善は進んできた。またのところにお願いをしていく。
- ・製品の値上げがあるのかどうか質問をする。
- ・特更委員会を今後考えなくてはならないのか。

編集後記

広報部副部長 脇 克美

昔から1月は「行き」2月は「逃げる」3月は「去る」とは、よく言われています。本当に、あつと言う間に3月になってしまいました。仕事は、さほど忙しい訳ではないのに月日の経つのが早いというのは年のせいでしょうか。

正月明けの連休を利用して1泊でしたが函館に行ってきました。北海道にはまだ一度も行った事がなかったので大変楽しみでしたのですが、出発前日から台風並みの低気圧が発生して、しかも翌日には、その中心が北海道に進むという予報がでてしまいました。

当日、朝早く羽田に行くと、青森行きの便などは欠航していました。函館行きは何とか出発したのですが雲の上に出るまではかなり揺れました。何とか函館に着いて早々、朝市に行き海鮮どんぶりどりと活いかの刺身をかきこみ朝市の鮮魚店をひやかしていると、市場の兄ちゃんが「今晚から大雪になるよって」言うではありませんか。同行の友人二人と相談して2日かけて観光する予定を急遽、今日1日

で済ませることにして五稜郭、ベイエリア、元町と大急ぎで廻り、函館山の景色を見ようとロープウェイ乗り場まで行くと強風のため運休ではありませんか。しかたなく湯の川温泉の旅館に入るとニュースで函館には49メートルの突風が吹き、さっきまでいた赤レンガの倉庫には海水が入っている様子が映っていました。しかし、翌目を覚ますと低気圧は急速に去って行ったようで、雪も降らず好天となりました。函館山にも上がって素晴らしい景色も見ることができ、カニ、ウニ、イカと北の海の味覚を堪能してきました。今ではデパートでやっている北海道の物産展に出掛けるのがヤミツキの私です。